



目先の利害に
惑わされると
将来に禍根を残す

瓦問屋と海拔0m地帯

港区の戦後の町づくりで、二mもの盛土をして街を高くしたという世界でも珍しい大規模事業が行われたこと、しかし、ここ南市岡あたりは今も隣を流れる尻無川の水面の方が高いという話。昨年十一月号に書きました。なぜここは盛土がされなかったのか？
実は川沿いの瓦問屋と関係があるそうです。

〈瓦問屋〉

大正時代、大阪では瓦の需要が高まりました。一九一六年（大正五年）の改修工事で川幅が広がった尻無川には、瓦の生産地である淡路島から船が入ってくるようになりました。それで川沿いの南市岡の地域に瓦問屋が軒を並べるようになったそうです。今でも残っています。今でも残っています。瓦の需要は激減、瓦職人さんも随分と減ってしまったようです…

〈自民党議員が反対〉

盛土の工事が進んでいた頃は大変な繁栄ぶり、ここが推す自民党議員が反対したというのが真相

のようです。工事となれば大がかり、少なからず商売に支障をきたします。大阪市は予算まで組んでいたのに実現せず…という結果に。こうして今も尻無川堤防の道路を大阪ドームから四三号線方向に向かって走ると、見下ろす位置に建物が建っているというわけです。

目先の利害を優先し、長期的視野で物事を判断し、為していくことを避けると将来に禍根を残すという教訓が浮かびます。

もっとも残念ながら、二mの盛土で今予測されている巨大地震の被害を免れるとは考えられませんが…

元号やめてしまえばどうか

七九歳の農林業の方のこんな投書が去年、新聞に載った。「国民生活への影響を最小限に抑えると言うなら、いっそ元号を廃止すべき：国民の利便性は確実に高まる…」「そもそも、もうわが国は天皇主権の国ではない：元号かえる制度は時代錯誤もはなはだしく民主主義にもそぐわない」「日本はあたかも天皇が治める国であるかのような錯覚を生じさせる元号は、この機に：元号法と共に廃止する勇断をすべき：」今や天皇批判はもとより元号批判もタブーの雰囲気の中、勇氣ある投書。
天皇代替わりやオリンピックやスポーツニュースで報道を塗りつぶし、人々を知識と考察から遠ざけ、数と金と権力の力で改憲を押しとおし、気づいたらアメリカと一緒に戦争始めてたーそんな事態にしてはならないと祈るような気持ちの昨今。流されず惑わされず、事実と真実を探索し、改憲・戦争・独裁をとめよう！

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！